

# ハニ族における稲作農耕と伝統的知識の継承

阿部朋恒

首都大学東京大学院人文科学研究科社会人類学教室博士後期課程

红河学院国際哈尼/阿卡研究中心高級訪問学者

## ハニ族の紹介



ハニ族の居住地域

## ハニ族とは？

中国西南部の雲南省、タイ、ベトナム、ラオス、ミャンマーにまたがる山地に居住し、棚田水稲耕作ないし焼畑耕作を生業としてきた人々。中国の民族政策においてはハニ族（哈尼族）とされるが、ベトナムを除く周辺の国では一般にアカと呼称される。人口は中国内に約 160 万人、中国以外の東南アジア諸国に約 40 万人とされる。チベット=ビルマ語族に属するハニ語を話すが、離れた地域の出身者同士では意思の疎通が図れないほどに方言の差異が大きい。中国では 1950 年代にローマ字を用いたハニ語の表記法が考案されたが、普及率はゼロに近い。



調査地（T村）遠景

## ハニ族と私のかかわり



2011.9~2013.3: 雲南省红河州内のハニ族村落で1~3か月の短期調査  
2013.4~2015.1: T村での長期調査（2015年7-8月、2016年1-2月再調査）



T村内観

## ハニ族のコメ作り—変化と継承

紅河南岸の山間部に散在する村落で暮らすハニ族たちは、1980年代からの市場経済化、2000年以降の観光開発など地域全体を巻き込む動きのもと、日々の暮らしの大きな変化を経験してきた。そのようななか、かつて地域で一般的だった在来種の赤米栽培が著しく廃れ、代わってハイブリッド品種のコメの作付が広がっている。

私がおのべ24か月の住み込み調査を行ったT村では、手間のかからないハイブリッド米が導入されたことによって農作業のリズムと方法が大きく変わっただけでなく、出稼ぎ労働が常態化するきっかけにもなっている。この村では、赤米栽培に関する多くの知識が口承で伝えられる詩歌に唄われることで共有されていたが、ハイブリッド米が一般化するにつれてそうした知識は徐々に顧みられなくなりつつあり、代わって政府機関が提唱する「科学的」な農法が浸透しつつある。

とはいえ、赤米は祖先祭祀や賓客をもてなす宴席で欠かすことのできないものとされているため、小規模ながら栽培が続けられている。また、現在でもほとんどすべての作業が人の手と家畜によって行われており、棚田を維持するための膨大な身体知も失われてはいない。農耕サイクルの節目に村を挙げて催される儀礼についても、この地域の多くの村でなお目にすることができる。



苗代づくり



田植えと防風対策



稲刈り（右上はハイブリッド品種）

### ハニ族の生活とコメ作り 一 農作業と主要儀礼のサイクル

12月	苗床の準備（水路整備、田おこし、田すき、施肥）
1月	播種、田んぼの整備（田おこし、田すき、畦の補修）
2月	田植え
3月	
4月	
5月	水量の調整（水路の巡回）、雑草とり、施肥
6月	
7月	収穫（刈りとり、荷運び、稲わらの処理、畦の補修）
8月	乾燥、脱穀、精米、貯蔵
9月	
10月	
11月	※茶色字は家畜、青字は機械を使う作業
12月	



刈り取り後



## 「伝統」を継承していくために

現在では、T村の若い世代の人たちは出稼ぎ先と村を行き来する暮らしをしている。村での生活は数多くの儀礼に彩られているが、「(村の)ソトには、ハニ族のやり方を持っていかない」との決まり文句があるように、街にいる間は年中儀礼や祖先祭祀をほとんど行わない者が多い。そうした状況を嘆き、「あと何十年かしたら、ハニ族はいなくなってしまうかもしれない」とこぼす村人もいる。また、街で出稼ぎを続ける若者のなかにも、本当は故郷で家族と一緒に暮らしたいという人も少なくはない。

人々の往来がますます頻繁になるなかで、村落での共同生活を基盤として継承されてきた多くの知識や実践が行き場を失いつつあることは確かだと感じる。しかしながら、将来受け継いでいくべき「伝統」や価値がどのようなものなのか、それはハニ族自身が暮らしのなかで選びとっていくはずのものであり、部外者が口をはさむことではないだろう。T村で過ごした二年間のあいだ、私はこうした葛藤を常に覚えていた。そこで雲南での「論文を書くため」の調査がひと段落したのちは、学問とは少し離れたところで、「ハニ族のやり方」を次の世代までつないでいくための試みを始めている。

その基本的な発想は、出稼ぎに過度に頼らず、かつ村落周辺の自然環境を大きく変えることなく経済的に家計が自立できる方法を、T村の人たちと一緒に考えていくというものである。おりしも2013年に「紅河ハニ棚田群の文化的景観」が世界遺産に登録されたことから、ハニ族は印象的な棚田風景とともに広く知られるようになっていく。こうした時勢を追い風とし、ハニ族の「伝統的」な農法で育てた赤米を使って付加価値の高い商品を開発できないものか、目下試行錯誤を続けているところである。

## ハニ族の生活とコメ作り ――近年の変化と現状

### 20年前

- 徒歩一時間の場所で定期市開始
  - 食料の完全自給が崩れ始める
- ハイブリッド米を導入
  - 労働量が減り、出稼ぎが一般化しはじめる
- 送電がはじまる

### 10年間

- 薪の必要量が減り、森林が開墾される
- 家電製品(テレビ、携帯電話、IH調理器)
  - かまど(囲炉裏)を中心とした生活空間に変化

現在 ※漢語リテラシー、戸籍制度など主流文化への合流傾向

## 近年の変化と現状

- コメのほとんどが自家消費
  - ・生産者価格が安すぎる(一キロ20~40円)
  - ・定期市までの運搬が困難
- ハイブリッド米の作付が90%以上
  - ・政府の後押しと補助
  - ・在来品種の赤米は手間がかかり、収量が安定しない
- コメづくりに関連する知識の継承は難しくなりつつある
  - ・伝承歌にあるやり方とは別の「科学的」な方法が浸透
  - ・若者を中心に、出稼ぎが長期化する傾向
  - ・商品作物への転換の模索
- 赤米の作付はなくなってはいない
  - ・特定の儀礼や客を接待する場面では赤米が必要
  - ・「ハイブリッド米はまずい」という認識

## 赤米の日本酒づくりプロジェクト

- 「村にいたいこと」が伝統を継承するための要
  - ・「(村の)ソトには、ハニ族のやり方(yoqlil)を持って行かない」
  - ・(未来の)儀礼的村長と呼ばれる少年
- 地元でとれる農産物の商品化
  - ・通常の2.5倍の価格がついたお土産用の赤米
  - ・「世界遺産」ブランド×無/低農薬農法×健康志向の流行
- 日中の研究機関による共同プロジェクト構築
  - ・地域と学問領域を横断した実践の場ができてつつある
  - ⇒誰にとっても「専門外」になるため、具体的な動きがとりにくい
  - 関税、酒造技術、販路、公正な利益還元の方法・・・課題は山積み

## 同じものを見ることの難しさと大切さ

世界遺産登録が決まったとき、私はそのニュースをT村の人たちに伝えようとしたが、「伝統」「文化」「環境」「保護」など、生活実感から離れた概念に相当するハニ語がないことに気づいて困り果ててしまった。結局その場では、長い議論の末に「祖先の水田がきれいだ、ハニのやり方がよいと、ソトの外国人がそのように言っている」というような世界遺産をめぐる共通認識が出来上がった。

ここから分かるのは、近年中国でも法的整備が進みつつある無形文化遺産（中国語では非物質文化遺産）保護の文脈で「ハニ族の伝統を保護する」とことと、たとえばハニ族が「ハニ族のやり方を（子供などに）教える」ことのあいだには、実はかなり大きな隔たりがあるということである。ハニ族の日常的な会話のなかでは「世界遺産」が異質な言葉になってしまうのと同じように、ハニ族が価値を認める「やり方」がどのようなものなのかをわれわれが理解することは、想像以上に難しいことなのである。

ハニ族の「伝統」を紹介する観光用のパンフレットや学术论文は、あくまで読み手である（ほとんどの場合はハニ族ではない）旅行者や学者が理解しやすい観点から書かれるのであって、かならずしもハニ族自身の見方がそこに反映されているわけではない。しかし、T村の人たちと協働しながら将来を見据えたプロジェクトを進めていくとなれば、善意の押し売りにならないためにも、できる限り現地の考え方に沿った発想を基礎に置くべきであろう。そのためには、私たちが村の人たちに学ぶ姿勢を保ち続け、できることを一歩ずつ進めていくことが肝要だと考える。

電話一本で簡単に国境を越えるコミュニケーションがとれる今日の世界にあつて、開発にせよ研究にせよ、する側／される側の非対称性は時代遅れのものになっていくはずである。「同じものを見る」ための方法が、いま問われている。

伝統を継承していくために  
——同じものを見ることの難しさ

- 2013年6月 第37回世界遺産委員会（ブノンペン）  
「紅河ハニ棚田群の文化的景観」の登録決定  
(Cultural Landscape of Honghe Hani Rice Terraces)
- このニュースを吹聴すると・・・  
酒の肴に恰好の話題としてひとしきり言い合いになる

祖先の水田がきれいだ、ハニのヨリがよいと、外の外国人がそのように言っている  
*Aqpyuq aqbol e xaldei fuqzha, haqniq yolil meeq, laqnil e Waqgo col xilmei lei eil.*

伝統 景観 文化 ひとごと

伝統を継承していくために  
——同じものを見ることの難しさ

祖先の水田がきれいだ。  
*aqpyuq aqbol e xaldei fuqzha,*  
ハニの“ヨリ”がよいと。  
*haqniq yolil meeq,*  
外の外国人がそのように言っている。  
*laqnil e Waqgo col xilmei lei eil.*

“環境” “景観”	→	<i>xaldei</i>	/	<i>xaldei</i>	→	水田
“传统”	→	<i>aqpyuq aqbol</i>	/	<i>aqpyuq aqbol</i>	→	祖先
“文化”	→	<i>yolil</i>	/	<i>yoli</i>	→	規矩、
礼貌						
A						B

AとBの間にある大きな溝を常に意識すべき